

日常生活圏域ニーズ調査データの分析支援結果を用いた
北海道K町での介護予防・生活支援対策推進調査事業との関連

研究分担者 岡田 栄作（浜松医科大学 医学部 健康社会医学講座 助教）

研究要旨

北海道K町では、基本理念に沿った地域ケアシステムを構築するために、JAGESプロジェクトにおいて、平成29年3月に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の分析支援に参加し、地域診断からK町の地域特性や課題を分析した結果、「物忘れ、転倒、要介護リスクが高い」、「ボランティア参加者の割合が高い」「スポーツの会と趣味の会の参加は低い」など地域課題が抽出され、効果的な介護予防の推進と介護予防の事業評価に取り組む資料となった。また、高齢者の社会参加は効果的な介護予防であり、K町の高齢者支援の課題として「見守り（配食・会食）」「除雪」「外出支援」の支援体制の充実をする根拠となった。

A. 研究目的

JAGES（日本老年学的評価研究）では独自に開発した地域診断支援システムを用いて、市町村から頂いたデータを基に地域診断、市町村間比較を行う「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査分析支援」を提供している¹⁾。厚生労働省では、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」（以下、ニーズ調査）により得られたデータを「見える化」システムに掲載し、地域診断の基礎資料として、各事業のPlan-Do-Check-Act（PDCA）サイクルの管理方法として、ニーズ調査の活用を推奨しているが、多くの市町村では、経験が蓄積しておらず支援が必要な状況である。JAGESでは、ニーズ調査分析の結果を市町村にフィードバックし、第7期一般介護予防事業評価事業の策定までを支援している。

本研究で支援をしたK町は人口12,098人

（H29.10.1 現在）、65 歳以上人口4,628人、高齢化率 38.3%、要介護認定率 16.7%であり、全国・全道平均よりも早く少子高齢化が進んで

いる町である。今後、ひとり暮らしや高齢者や高齢者のみの世帯の増加が見込まれていることから、「高齢者が住み慣れた地域で、可能な限り自立した生活を送ることができるよう、また介護が必要な状態になっても生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり」を基本理念に地域包括ケアシステムの構築を進めている。

K町では、基本理念に沿った地域ケアシステムを構築するために、JAGESプロジェクトにおいて、平成29年3月に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の分析支援に参加し、地域診断からK町の地域特性や課題を分析し、そこで得られた課題と介護予防・生活支援対策推進調査事業を結び付けた取り組みを実施することができないかどうか検討した。地域特性を生かした介護予防・生活支援体制整備を推進するため、日常生活圏域毎に地域住民の介護予防と生きがいに関する意識や生活実態の把握とニーズ調査・分析を行い、新たな事業立案を目指すことを目的として、JAGESが提供した日常生活圏域ニーズ調査データの分析支援結果が、北

会は、皆さんと実現するための第一歩にしたい
 と思い開催した。

内容は

講演

「K町で上手に暮らす、健康に暮らす」

いつまでも健康に暮らし続けるために自分達で
 もできることとは。自治体と地域が一緒に取り
 組んだ事例から健康維持のヒントを伝える。

前半

講話：浜松医科大学 健康社会医学講座

助教 岡田栄作

後半

座談会

「K町の暮らし未来を考える」座談会

今のK町は高齢者に対してどんなまちなのか、
 高齢化するK町の今後を考えると、どのようなサ
 ービスや支え合いが必要になって行くのか、参
 加者のみなさまの暮らしや今後の心配事などの
 意見を基に対談形式で考えていった。

開催日時：平成30年11月19日14：00～16：00南

部地区：T地区

開催日時：平成30年11月20日18：00～20：00南

部地区：K地区

開催日時：平成30年11月22日13：30～15：30南

部地区：N地区

図3 ワークショッププログラム

介護予防・生活支援対策調査事業K町「このまちで健康に暮らす」座談会			
時間	2:30	アクティビティ	ダンドリ
13:00		会場設営 シアター及びサークル型(4～5名/島) 配布資料 ・講話レジュメ プロキーマ 付箋 名札 ノートPC	プロジェクトのチェック 参加者名簿 受付設営 ワーク中の配布資料準備 ・おだんごシート(A4)
13:00	0:30	受付開始 参加者を席に誘導	
13:30	0:05	オープニング 趣旨説明 進行役の自己紹介 ワークショップ全体の進め方と狙い	個人の健康から始め、 個人の健康とまちの関 わりについて講話する
13:35	0:30	岡田の講演 「K町で上手に暮らす、健康に暮らす」 ・岡田、自己紹介 ・講話(個人の健康とまちの関わり) いつまでも健康でいるために 地域診断結果から見る栗山町	
		座談会 「K町の暮らし未来を考える」	良いイメージが湧く様にお 会場から質問を受ける
14:05	0:03	前半講話のポイント整理	
14:08	0:10	バス(参加者2名～3名程度で話し合い感想や質問をもらう)	参加者を巻き込む
14:18	0:20	会場から出された感想についてパネラーが対話する	想定している3つのテーマ に話しの内容を引っ張って いく
14:38	0:05	まとめ、話し合った中から重点テーマをピックアップ	
14:43	0:10	グループに別れてテーマを深める グループ決め(全員、話し合いテーマを選択する) グループを作る グループ対話 問い:「困っていること」「知っていること」「試したいこと」 ①外出支援 ②除雪 ③見守り ④その他	1グループ5名程度 基本テーマ3つと、座談会で出 たテーマも加える 会場の雰囲気を見て、全 体がグループ分けするか を決める。
15:13	0:10	全体共有 テーブルファシリテーターが発表	岡田先生からのコメントも！
15:23	0:05	クロージング お礼 今後の協力依頼	
15:28	0:02	(ハッピー)	
15:30		終了	
15:30		撤収	

図4 実際の様子

T地区



K地区



N地区

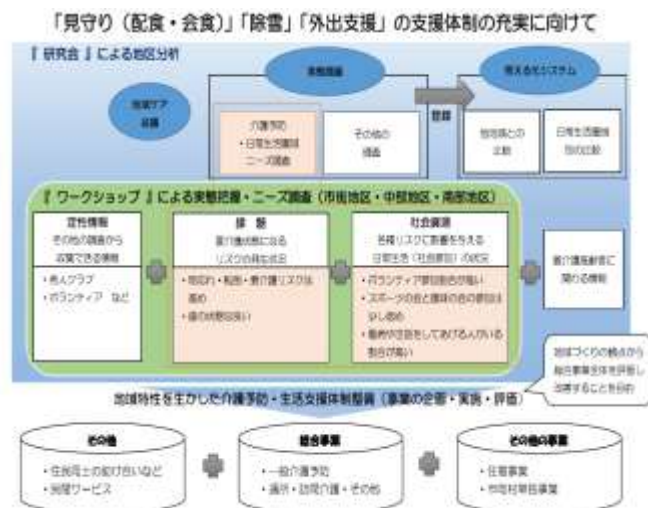


D. 考察

JAGES プロジェクトの「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の地域診断からK町の地域特性や課題を分析した結果、「物忘れ、転倒、要介護リスクが高い」、「ボランティア参加者の割合が高い」「スポーツの会と趣味の会の参加は低い」など地域課題が抽出され、効果的な介護予防の推進と介護予防の事業評価に取り組む資料となった。また、高齢者の社会参加は効果的な介護予防であり、K町の高齢者支援の課題として「見守り（配食・会食）」「除雪」「外出支援」の支援体制の充実をする根拠となった。元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することができる地域づくりが求められている。現在、団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据えて地域包括ケアシステムの構築を進めているが、今後の超高齢社会に適応した地域づくりには、地域住民とともに自らの地域のニーズを把握し、加齢に伴い支援が必要になっても、地域において安心して暮らしていくためにはどのようなサービスが必要なのか、どのような地域の社会資源等が活用可能なのかを考えていく必要がある。ニーズを把握した結果を基に、地域住民、行政、民間事業者、ボランティア等が協働して、支え合い、助け合いながら暮らすことができる『我が事・丸ごと』の地域共生社会の実現に向けた生活支援体制の整備を進めなければならない。本事業は、地域特性を生かした介護予防・生活支援体制整備を推進するため、日常生活圏域毎に地域住民の介護予防と生きがい

に関する意識や生活実態の把握とニーズ調査・分析を行い、新たな事業立案を立ち上げる契機になった。

図 5 「見守り」「除雪」「外出支援」の支援体制の充実に向けて



E. 結論

地域診断から栗山町の地域特性や課題を分析した結果、「物忘れ、転倒、要介護リスクが高い」、「ボランティア参加者の割合が高い」「スポーツの会と趣味の会の参加は低い」など地域課題が抽出され、効果的な介護予防の推進と介護予防の事業評価に取り組む資料となった。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

岡田栄作、杉田恵子、櫻木正彦、近藤克則、尾島俊之：地域診断結果共有・展開ツール「Community Diagnosis Share Tool」の開発、第58回日本社会医学会総会、2018年7月、宇都宮

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

文献

1) 一般社団法人日本老年学的評価機構HP

<https://www.jages.net/renkei/300bm/>